

月刊 熱血介護！

いつもお世話になっております。

「月刊熱血介護！」は、当ホームの活動内容や介護現場での成果、認知症に関するお役立ち情報などを発信してまいります。是非、ご覧くださいませ。

「徘徊」はごく普通の行動

認

知症の方を支える家族や介護職員が負担に感じる認知症の症状の一つに「徘徊」が挙げられます。

皆さんは「徘徊」という言葉にどのようなイメージを持っていますか？大半の方が「大変」「危ない」とマイナスイメージを持っているかと思えます。そのようなイメージを持っていることから、「椅子に座って待ってね。」「危ないから動かないでね。」という言葉が飛び交うようになってしまいます。その言葉の反動で認知症の方はますます落ち着かなくなること多くなります。

認知症の方と私たちの行動を同じ目線でみてみると「何か用事があるから出かける」「腰が痛いから立ち上がる」といった行動はごく普通の行動であると捉えることができます。そのため、自分の思いを伝えることができないその方がなぜ立ち上がったのか、何を目的にどこに向かっているのかを考える想像力が必要となります。

BPSDは「**認知症の行動と心理の症状**」という意味を持っています。心理症状に対しては薬物療法で効果が現れることがあります。

ますが、行動の異常に対しては効果が期待できないため、行動の異常を改善するためにはその方の**心理状態を落ち着かせる**必要があります。

「徘徊」というBPSDに適切に対応するためにはその行動を抑制せず、そして否定することなく**その方の思いに寄り添う**ことで適切な対応方法を編み出せることがあります。

それと同時に、その方と1対1で対応できる職員配置も必要になります。デイホーム照和では、**認知症の方の症状を的確に捉え、適切な対応方法を編み出していきます。**

今回は、徘徊をする方に実際に行った支援の一事例をご紹介します。



デイホーム 照和

SHOWA

熱血介護（スタッフ BLOG）

株式会社 照和

検索 

作成者：高橋 良